「小牛田農林高校科学コース活動事例」

宮城県小牛田農林高等学校

１．活動の概要

本校の活動は震災後すぐに東松島市の災害ボランティアに参加した生徒からの提案で始まった。

本校では、農業技術科科学コースの「課題研究」の授業は２・３年生８０名の生徒が８グループに別れ、各テーマでの課題解決学習に取り組んでいる。そこでボランティアチームを立ち上げ、そのグループが中心となり他のグループも含めた全員でローテーションによるボランティアを授業の中で行うことにした。ボランティアを行うに当たり、保護者への理解を促す文書も作成し、危険な場所に行くことから参加の可否もとった。また、ボランティア保険も参加生徒全員にかけた。

場所は東松島市大曲地区および野蒜地区。社会福祉協議会と連携をとりながら、現地ボランティアセンターと連絡をとり実施した。授業は、木曜日の５・６校時であったので、４校時終了後すぐに土嚢袋・スコップを詰め込んで学校のバスに乗り出発。生徒は、実習着に長靴・帽子・軍手・マスク・ゴーグルを着用した。現地では一般家庭や店舗、道路の側溝や植え込み等、重機が入れない場所でのヘドロ出し等を行った。参加生徒は誰一人ふざけたりなどせず、黙々と作業を行っている姿が印象的であった。

ヘドロ出し作業

２．活動の成果等

この活動は形を変え仮設住宅に住む被災者との交流として続いている。中心となった３年生は卒業するが、２年生がその意志を引き継ぎ１年生も巻き込み毎日放課後に集まって活動するようになった。

仮設住宅でのクリスマス会

今後は、被災地との対等な交流が出来ようにするため、本校生徒が仮設住宅に行き活動するだけではなく、仮設住宅に住んでいる方々を本校に呼び農業体験をしてもらう、双向のボランティアを計画している。

被災された方々の、毎日の活力や今後の自立に少しでも繋がればよいと考えている。

活動を行っての成果としては、

・津波の被害に遭った方々に直接会い話を聞くことで、自らの生き方について考えられるようになった。

・相手を思いやる気持ちや協力することの大切さを知ることが出来た。

等であるが、生徒自らが考え、行動出来るようになったことが最も大きな成果であると感じる。

●期間　平成２３年５月～平成２４年２月

●災害ボランティア参加　：　１２回

　仮設住宅訪問等　：　　７回

●ボランティアのべ参加者：２８２名

（H24.3.1 現在）